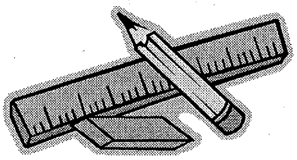
実践！こども会かべ新聞づくり講座　2016

平成２８年７月１０日（日）
こども会かべ新聞の作り方講習資料
大東市立市民会館　中会議室



1. かべ新聞とは

いろいろな主張やニュース・写真などを編集して、壁や掲示板にはりだす新聞。
手書きのものが多い。

☆ かべ新聞の特徴

1．手軽で手間がかからない。
2．模造紙に黒マジックで書くのが普通だが、工夫を加えると、かなり高度なものができあがる。

2. 新聞づくりのねらい

1．こども会の活動を紹介しながら、明るいこども会をつくる。
2．「知りたい、知らせたい、知られたい」を通して、人間関係を育てる。
3．書くことで、考えを深めることができる。
4．役割を分担することにより、一人ひとりの計画性や責任感、協調性を育てる。
（紙面に仲間を発見する）

3. 新聞づくりの流れ

（企画会議→記事づくり→編集会議→紙面づくり→完成・発表）

1．企画会議

① 題字（新聞の名前）を決める

・題字は新聞の「顔」。⇒題字は大事！
・みんなで話し合って、「○○こども会」を代表する名前をつけよう。
・字体や題字の背景を工夫しよう。（毛筆・絵筆・クレヨンで書く。絵・図柄、レタリングなど）

② 記事内容の話し合い

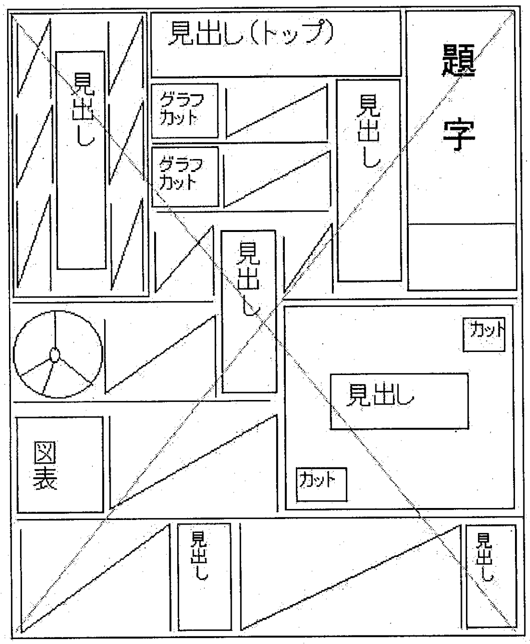
・どんな記事をつくるかを話し合おう。（５～６つぐらいが標準）
・たとえば、＊こども会の活動、行事、できごと　＊こども会の主張や課題
　　　　　　＊自分たちの地域のできごと　　　　＊こども会の仲間や指導者
・トップ記事（一番重要な、一番伝えたい記事）を決めよう。
※ただし、記事は新しさが命（いのち）ということを忘れないこと。

③ 役割分担

- それぞれの記事の担当者、全体のレイアウトの担当者、カット・イラストの担当者など。
- 各担当者は、できれば複数で。

④ 紙面のレイアウト、字数の決定

- 紙面づくりのコツ



（1）外枠をペン（鉛筆で下書き後）で描く。
同じ間隔で段を鉛筆でうすく区切る。
（5～6段くらいがレイアウトしやすい）

（2）題字・トップの記事を配置する。

（3）見出しやカット、グラフなどを対角線上になるように配置していく。

（4）見出し、写真は、上に大きく下に小さく。

（5）見出しを縦書きや横書きにしたり、かこみ記事を入れると変化がつく。

（6）記事が多すぎると読みにくいので、３つか、多くても４つにしぼる。

（7）記事のタイトルは大きめに

2．記事づくり

① 記事に関する情報収集・取材・アンケート

- 企画会議で決まったことをもとに情報を収集しよう。
- 集めた資料のうち、図や表にした方がわかりやすいものは図や表にまとめる。
- 自分たちのこども会ならではの話題をさがそう。

② 記事の下書き

- 情報を整理する。（大切な部分だけを選び、残りは思い切って捨てる）
- 決まった字数内で、要点をまとめる。（記事用の原稿用紙をつくると便利）
- 記事は、「短く、やさしく、はっきりと」できれば、「いつ＝日時、どこで＝場所、だれが＝人、何を＝目的・行為、なぜ＝原因・理由、どのように＝手段」を入れるのが原則。（5W1Hの6要素）
- 記事は具体的であること。そして客観的であること。
- ニュース記事は、逆三角形。（一番大事な結論→状況・経過→比較的重要性の少ない事柄）
- 悪口やうそや人を傷つけることや大げさに書いたりしない。また、人気者ベスト○○なんていうのもやめよう。
- 誤字（まちがった字）・脱字（書き落とした字）がないか注意する。
- 人を傷つけるような記事は、絶対にさける。

3．編集会議

① 紙面のレイアウト、記事の配置

・割りつけ用紙に線を入れ、記事を区分する。
・トップ記事は何にするか、セカンド記事、サード記事は・・・。
・たたみ記事（普通は紙面の左上：こども会の主張・意見など）はどうするか。
・かこみ記事（普通は紙面の右下：アンケートなど）はどうするか。
・記事内容、字数の再検討。

② 見出しの言葉を考える

・記事の一番大切な部分や訴えたいことは？
・記事の中身を読まなくても内容がつかめるように。（短く、わかりやすく）
・書いた記事の中から見出しを見つける方法もある。
・「〇〇について」「〇〇を終えて」のようにならないように。
・見出しを見て、読んでみようと思わせる＝人を引きつけるような工夫をする。
　◇具体的に　「〇〇チームの勝利」→「〇〇くん、笑顔のサヨナラホームラン」
　◇倒置法　「こども会フェスティバルで　〇〇こども会金賞受賞」
　　　⇒　「〇〇こども会金賞受賞　こども会フェスティバルで」
　◇ 体言止め　「きまりを一部改正しました」→「きまりを一部改正」

4．紙面づくり

① 題字・見出しづくり

・レタリング、色をぬる、白で抜く、スクリーントーンの利用など。
・商業新聞の見出しも参考してみよう。

② 編集者の名前を入れる

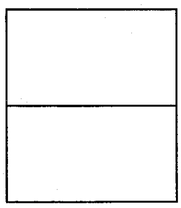
・責任を持って新聞をつくっていることを示すため。

③ カット、写真、図、表の作成

・記事の内容にあったカット・イラストを描く。
・絵を描くのが苦手な場合は、市販のカット集などを参考に描いてみよう。

④ 囲みの線、区切りの線を入れる

・レイアウトを考えて。
・基本的には「腹切り」にならない方がよい。
　（記事が切れて、読む流れが悪くなる。）
・「飾り罫」などの工夫を。
　（特にかこみ、たたみ記事の線に利用）



←「腹切り」

※困った時は一歩、かべ新聞をはなれて見てみよう。思っている通りの壁新聞になっているか見えてきます。

⑤ 記事の清書

・清書する前に、もう一度記事を読み返して誤字・脱字がないかチェックする。
・迷ったら、辞書を引こう（労力を惜しまず）。

⑥ 紙面の整理

・鉛筆で書いた線などをきれいに消す。

⑦ できあがりの確認

・誤字・脱字はないか。
・読みやすく、美しい文章になっているか。
・見出しの言葉は適切か。
・記事の内容と合っているか。
・レイアウトに工夫がされているか。
・記事の中身は充実しているか。
・それぞれのこども会の特色は出ているか。

5. 発表

① 掲示する

・できるだけ多くの人に見てもらおう。
・アンケートを書いてもらうなどして、ぜひ感想を聞こう。

② 反省会

・反省点を出し合い、次回はさらに良い新聞をつくろう。

さあ、みんなで作ってみよう！